

方面	方面隊優秀隊員表彰式	(1面)
1師団	師団指揮所訓練	(3面)
12旅団	旅団訓練検閲	(4面)
関東補処	方面職種合同訓練・集中野営	(5面)
1施設団	陸曹中級課程履修前教育	(5面)



令和4年3月25日 第1046号

総監統率方針「強靱な東部方面隊の創造」
総監要望事項「克己」

陸上自衛隊東部方面隊広報誌
発行所：方面総監部広報室
住所：東京都練馬区大泉学園町
専用線：8-37-2446

方面隊優秀隊員表彰式

部隊の精強化に貢献

方面隊は2月19日、朝霞駐屯地において令和3年度方面隊優秀隊員表彰式を実施し、各部隊等の隊務運営及び東部方面隊の精強化に貢献した隊員を表彰した。

表彰式は新型コロナウイルス感染症の影響で例年より規模を縮小して行った。総監は「君たちに伝えたいのは『おめでとう』ではなく『ありがとう』。ためて感謝の気持ちを伝えたい。これからも今回

の受賞に誇りを持ち任務にまい進して欲しい」と述べた。

受賞者の1人、第2普通科連隊 桑原准尉は思いがけず表彰され、喜びより驚きの方が大きかった。定年まであと2年、これを励みにさらに頑張ります」と語った。

方面隊優秀隊員

隊務一般		隊務特別	
第32普通科連隊	准尉 橋場 寿則	自衛隊静岡地方協力本部	准尉 河野 隆
第2普通科連隊	准尉 桑原 雄二	高田駐屯地業務隊	高田 由起子
第30普通科連隊	曹長 宮島 裕	医療職(二)4級	山本 健
第1施設団本部付隊	准尉 清水 洋一	東部方面後方支援隊	即応予備2曹 伊藤 健
第31普通科連隊	准尉 浅山 茂	自衛隊群馬地方協力本部	予備1曹 田村 泰男
関東補給処用賀支処	准尉 藤元 春光	自衛隊静岡地方協力本部	予備曹長 望月 光三
東部方面システム通信群	曹長 塚田 真紀子	第2普通科連隊	2曹 宮尾 祐司
東部方面衛生隊	曹長 富永 美紀	自衛隊富士病院	1曹 松本 真由紀
霞ヶ浦駐屯地業務隊	准尉 奥澤 一夫	東部方面後方支援隊	2曹 藤原 毅
自衛隊千葉地方協力本部	准尉 京極 和和		

方面隊優秀隊員表彰式



総監から表彰を受ける第2普通科連隊 桑原准尉



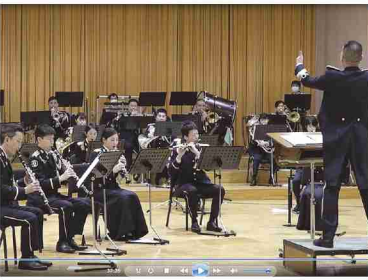
総監から祝辞を受ける受賞者

音楽まつり動画配信

演奏とドラマのコラボレーション

方面隊は、令和3年度東部方面隊音楽まつりの動画を東部方面隊公式YouTubeチャンネルに公開している。

今年度の音楽まつりは新型コロナウイルス感染症の影響により中止となったが、公開予定だった演奏や映像を約40分の動画(写真上)に編集



真下)が主演し、多くのファンが楽しめる内容となっております。多くの視聴を期待しています。



YouTube

方面隊写真コンテスト

優秀作品9作品を選出

方面隊は写真技術と撮影意欲の向上を目的として、東部方面隊写真コンテストを実施した。

本コンテストは方面隊下部隊及び方面区内駐屯地の隊員を対象に「現場で輝く部隊・隊員の活動写真」をテーマとして募集し、総出品点数77点の作品を部外審査員が厳正に採点・評価し、最優秀賞として第12特科隊 米原3曹の作品が選出された。なお入賞作品は、東部方面隊公式ホームページに掲載している。



優秀賞「退官の日」
第1普通科連隊 松田3尉



最優秀賞「撃て！」
第12特科隊 米原3曹



優秀賞「照明弾 戦場を照らせ」
普通科教導連隊 峰崎2曹



優秀賞「群青」
第1戦車大隊 椎原2曹



優秀賞「集中」
東部方面航空隊 澤田2曹



特選「息を、殺して」
普通科教導連隊 渡邊3曹



特選「島嶼部防衛」
第1空挺団 長野2曹



特選「天空の清掃人」
第5施設群 佐々木3曹



特選「負けるな同期(パディ)」
第13普通科連隊 小川3曹

總監初度視察

現況を把握し總監企図を徹底



状況報告（東部方面会計隊）

總監は1月16日から2月9日にかけて、朝霞駐屯地所在部隊に対する初度視察を実施した。

視察では状況報告、施設巡視等に加え、東方面では演奏実視、東シ通群では撮影技能の確認が行われるなど、各部隊の特性を反映したものが多かった。

總監は各部隊の訓練や施設・装備等の状況に加え、即応態勢、業務の効率化及び女性隊員活躍推進等についても確認・指導し、部隊の現況及び能力等について把握するとともに、總監企図を徹底した。

施設説明（東部方面後方支援隊）



また總監は立会した隊員に対して声掛けをしてきたが、そのはつらつとした対応により、全隊員が各部隊長を核としてそれぞれの職務にまい進していることを確信した。

演奏披露（東部方面音楽隊）



施設巡視（東部方面總監部付隊）



スプリングフェア

広報センターは3月5日、陸上自衛隊に対する理解の促進を目的にスプリングフェアのイベントを開催した。



NBC偵察車を見学する来館者

実施に当たっては感染防止対策を万全にし、1グループの見学時間を約80分間として3回に区切って実施した。



16MCV車上への搭乗

当日は化学科部隊が保有する除染車による散水でいたただき、約200人の方が普段見ることができない装備品等を興味深く見学した。

要領やNBC偵察車・個人用防護衣等を展示した。また安全管理を万全にした上で16MCV車上での記念撮影も企画した。来館者の大半は家族連れであったが、近隣の東京・埼玉だけではなく遠方からも足を運んでいただき、約200人の方が普段見ることができない装備品等を興味深く見学した。

陸上自衛隊広報センター（りっくんランド）

公式音声ガイド導入

広報センターでは公式音声ガイドアプリを導入した。お手持ちのスマートフォンでアプリをダウンロードすると、来館時に館内にも活用ください。



音声ガイドはこちらから

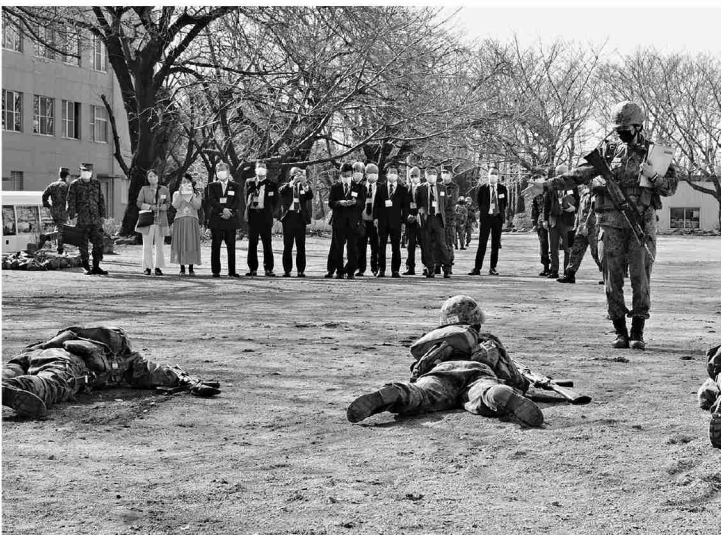
朝霞駐屯地の魅力に迫る オピニオンリーダー・東桜会研修

方面隊は3月3日、東部方面隊オピニオンリーダーに対し、朝霞駐屯地研修を



ひなまつりメニューを体験喫食する研修者

研修は隊員食堂での体験喫食、総務部長による東京オリピック・パラリンピック支援等のブリーフィング、東部方面音楽隊の演奏鑑賞、女性自衛官教育隊の訓練見学、衛官浴場の見学、朝霞訓練場における各部隊の訓練状況の見学等を実施した。参加した13人の会員は、隊員の身近な生活や小規模な訓練等に対して新鮮さを感じていた様子であった。中でも第32普通科連隊が実施したオートバイ訓練の見学では、不整地における走行訓練の様子に感銘するとともに、活動状況やオートバイの性能等、多くの質問を寄せた。



女性自衛官教育隊の訓練の研修



オートバイの説明を受ける研修者

オートバイ訓練の見学では、不整地における走行訓練の様子に感銘するとともに、活動状況やオートバイの性能等、多くの質問を寄せた。

ウイルス感染症の影響により映像ばかりの研修が多い中、今回のように直接見ることができるとはありがたい。自衛官募集等、今後の活動に生かしていきたいと語った。

篠田会長は「新型コロナウイルス

第1師団

BCTCで指揮幕僚活動を演練 令和3年度師団指揮所訓練

師団は東部方面指揮所から2月4日までの間、訓練センター及び朝霞訓練センターにおいて、1月31日から19日までの間、第32普通科連隊に対し、令和3年度第4・5回師団指揮所訓練を実施した。



訓示する兒玉師団長



指揮所で幕僚を指導する第34普通科連隊長(左)



指揮所で幕僚を指導する第32普通科連隊長(右)

対し「勝利への執念」「自ら学べ」の2点を要望した。本訓練は師団から先遣された戦術団による攻撃の想定で実施され、指揮官等に対する部隊運用能力の向上を図った。また対抗部隊は師団司令部第2部及び隷下部隊から参加した操作員により編成

され、互いに真剣勝負で戦った。状況終了後は各部隊が研究会を実施して、多くの教訓を得ることができた。訓練に参加した32普通科連隊の第3科の前田1尉は「指揮官が状況判断するた

えらことに着意した。本訓練に臨み、不測事態に対応する第3科の連幹としての手順・要領を理解することができた。この



訓練終了後の研究会

第2回部隊相談員養成訓練 部隊の相談窓口となる隊員を養成



司令部心理幹部による教育

師団は2月1日から3日までの間、練馬駐屯地において令和3年度第2回部隊相談員養成訓練を実施した。

訓練には師団隷下部隊から22人が参加し、メンタルヘルス施策、傾聴の基本技法、ストレス対処法等を教育し、軽易な相談対応や各種専門窓口への繋ぎ

が実施できる部隊相談員を養成した。参加した第1通信大隊の森田2曹は「仲間の不調や変化に気づき、傾聴し、繋ぐことができる存在になれるように、自分を成長させていきたい。特に傾聴技法を実践していきたい」と今後の抱負を述べた。

ドローン運用の認識を統一 練馬・板妻・勝田駐屯地で普及教育

師団は2月7日、9日及び15日、練馬駐屯地、板妻駐屯地及び勝田駐屯地において師団隷下部隊等のドローン保有部隊に



ドローン実機による操作教育

対し、ドローン普及教育を実施した。教育では災害派遣活動を想定した不測事態対処要領、目視外飛行等の実

技が行われ、安全・確実なドローン運用について各部隊に対し、認識の統一を図ることができた。教育に参加した第1後方支援連隊の小林3曹は「ドローンを活用した情報活動が重要なため、今後の訓練にしっかりと反映させていきたい」と今後の抱負を述べた。

師団は1月12日から21日までの間、練馬駐屯地に所在する部隊は司令部庁舎において、各駐屯地の隷下部隊はテレビ会議システムを用いて、第4回師団情報処理システム訓練を実施した。



情報処理システム訓練の様子

本訓練は師団司令部第2部長を担任官として実施され、第1回から第3回まで

の情報処理システム訓練に参加した各部隊の情報処理担当者に対し、災害対処及びゲリラ・コマンドウ対処の場面におけるシステムを使用した情報処理要領及び関係部隊等との情報共有について練度判定を実施し、情報処理能力の向上を図った。

優秀隊員を表彰 支えてきた家族に感謝

師団は2月12日、令和3年度師団優秀隊員招待行事を実施した。

本行事は職務遂行・教育訓練等に特に活躍し、師団の隊務運営に著しく貢献した隊員の功績を称えるとともに、隊員を支えてきた家族に対して感謝の意を表すことを目的とし、優秀隊員及びその家族を招待して師団長からの褒賞状授与、記念撮影を行った。

令和3年度 師団優秀隊員招待行事



表彰式の様子

- | | | |
|-----------|-----------|---------|
| 師団優秀隊員 | 第1普通科連隊 | 1曹 野上 聡 |
| 同 | 2曹 青柳 みさえ | |
| 第34普通科連隊 | 2曹 飯塚 真 | |
| 第1後方支援連隊 | 2曹 前川 辰紀 | |
| 第1特科隊 | 曹長 藤原 裕司 | |
| 第1施設大隊 | 曹長 佐藤 進 | |
| 第1飛行隊 | 1曹 船山 広幸 | |
| 第1特殊武器防護隊 | 曹長 宮内 征幸 | |
| 第1師団司令部付隊 | 2曹 古見 宗一郎 | |
| 第1音楽隊 | 曹長 佐々木 久登 | |

第12旅団

残寒の東富士で旅団検閲

攻撃戦闘に係る一連の行動を検す

旅団は1月29日から2月9日までの間、東富士演習場において第12特科隊、第12後方支援隊及び第12高射特科中隊に対し、各職種部隊の作戦準備、攻撃準備及び攻撃戦闘に至る一連の行動を検閲を実施した。

本検閲では計画策定から攻撃戦闘における各級指揮官の指揮及び幕僚活動、部隊の基本的行動、隊員の基礎動作を主要検

閲項目とした。部隊の特性に応じた検閲項目とするため、12特には敵情の変化に応じた火力運用及び装備品等に制約(故障・損耗等)がある中で、12高射中隊には敵情の変化に応じた対空戦闘及び装備品等に制約(故障・損耗等)がある中で、12後方支援隊及びあらゆる状況下での兵站支援の継続(旅団段列の推進)を、12高射中隊には敵情の

12特は改編を控えた旅団特科隊として受閲する最後の検閲として臨んだ。部隊はシステムを活用した指揮・幕僚活動により敵に対する有効な火力戦闘を実施し、併せて遊撃、航空攻撃等に臨機応変に対処するとともに、

12後方支援隊は旅団段列の運営をはじめ、患者後送・緊急患者空輸、故障車両の回収・整備、前線部隊への補給品の輸送・交付等、多岐にわたる任務を担った。部隊は敵の遊撃活動や航空攻撃などの妨害のある中において、柔軟性をもちて継続することを主眼とし、戦況の推移に合わせて段列を推進させ、兵站支援を継続した。優秀隊員に選ばれた寺尾2曹は「情報保全陸曹として参加し、第2整備中隊として初めての試みとなる直接支援小隊(DS)を含めた師団等

の対空戦闘の継続に際しても速やかに火力運用計画の修正を行い、同時複数箇所に対する火力要求にも応じた。検閲終了後、優秀隊員に選ばれた齊藤3曹は「測量器材車の操縦手及び火砲位置算定等の任務に積極的に取り組みました。陸曹昇任後初の検閲で優秀隊員に選ばれた

1月11日から実施された事前訓練では指導部による教授予行及び認識の統一を入念に実施した。1月16日から第1次、23日から第2次訓練が実施されると滑降・回転技術を主体に練成し、その識能を向上させるとともに、技能検定を実施し、部隊スキー指導官の資格を再認定した。

再認定を受けた隊員とともに、新たに誕生した25人の部隊スキー指導官の今後の活躍を期待する。



緊急患者空輸を実施する第12後方支援隊



射撃任務を継続する第12特科隊



目標を追跡する第12高射特科中隊



故障車両を回収する第12後方支援隊



部隊スキー指導官の検定を受ける隊員

25人の若き指導官が誕生 苦難と寒さを乗り越え精励

旅団は1月11日から2月14日までの間、関山演習場及び同周辺スキー場において、令和3年度部隊スキー指導官練成・養成集合訓練を実施した。この訓練は部隊スキー指導官認定試験受験者に対する部隊スキー指導官の資格の取得及び各部隊から参加した部隊スキー指導官に対する資格再認定を目的としている。

1月11日から実施された事前訓練では指導部による教授予行及び認識の統一を入念に実施した。1月16日から第1次、23日から第2次訓練が実施されると滑降・回転技術を主体に練成し、その識能を向上させるとともに、技能検定を実施し、部隊スキー指導官の資格を再認定した。

再認定を受けた隊員とともに、新たに誕生した25人の部隊スキー指導官の今後の活躍を期待する。

1月11日から実施された事前訓練では指導部による教授予行及び認識の統一を入念に実施した。1月16日から第1次、23日から第2次訓練が実施されると滑降・回転技術を主体に練成し、その識能を向上させるとともに、技能検定を実施し、部隊スキー指導官の資格を再認定した。

再認定を受けた隊員とともに、新たに誕生した25人の部隊スキー指導官の今後の活躍を期待する。



陣地変換を実施する第12特科隊



第12高射特科中隊を確認する旅団長(左から2人目)

な連続状況の中ではありましたが一致団結し、微力ながらも小隊の戦力として最後まで戦い抜くことができました」と受賞の喜びを述べた。

- 【優秀隊員紹介】
- | | |
|-----------|-----------|
| 第12特科隊 | 1曹 星 武史 |
| | 2曹 林 聖之 |
| | 2曹 森國 和樹 |
| | 3曹 齊藤 翔汰 |
| | 3曹 吉田 和樹 |
| | 3曹 松浦 裕樹 |
| 第12後方支援隊 | 1尉 茂呂 雄介 |
| | 1曹 永井 寿昭 |
| | 2曹 寺尾 孝雄 |
| | 3曹 愛甲 広和 |
| | 3曹 山田 浩斗 |
| | 3曹 五十嵐 幸太 |
| | 3曹 斎藤 彰美 |
| 第12高射特科中隊 | 2曹 吉田 一雅 |
| | 3曹 淨西 龍太郎 |
| | 3曹 山本 達也 |

2普連 積雪寒冷地部隊の誇りをかけて 冬季戦技の実力を競う



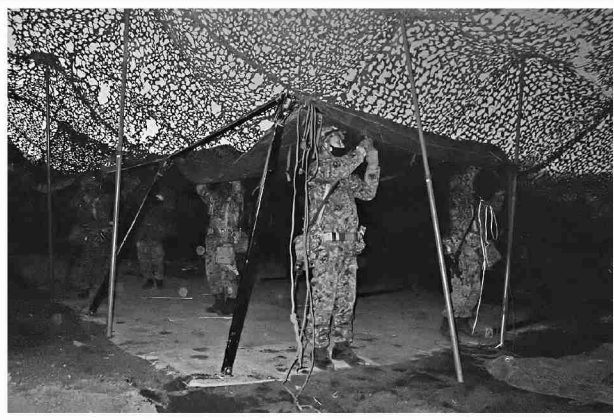
第2普通科連隊は2月14・15日の両日、関山演習場において、隊員の冬季戦技能力、特にスキー機動能力及び冬季における射撃練度の向上を図る目的で、連隊冬季戦技競技会を実施した。

競技会はアキオ曳航の部及び個人の部(一般及び初年次の部)で実施され、射撃を含む(初年次の部を除く)総距離約4・1キロメートルを滑走して競われた。各中隊、各隊員は積雪寒冷地部隊としての誇りをかけ競技に臨み、それぞれが持っている力を発揮し中隊のため、個人のために死力を尽くした。アキオ曳航の部及び初年次の部で優勝した第2中隊が総合優勝を果たした。

第1施設団

方面職種合同訓練及び第4次団集中野営 練度を向上し技術共有

施設団は1月20日から習場において令和3年度及び第4次団集中野営訓練を実施した。



指揮所を構築する隊員



第101施設器材隊による架設訓練を視察する總監

本訓練は橋梁架設能力、施設技術等の向上を目的としており、第1施設大隊及び第101施設器材隊は橋梁架設訓練を、団本部及び本部付隊は団野営における指揮所展開訓練を、第307施設隊は障害処理訓練をそれぞれ実施した。橋梁架設では、各部隊が装備する制式固定橋(07機動支援橋・パネル橋MG B)を運用し、第101施設器材隊は2夜3日、パネル橋MG Bを、



各機械が連携する採礫場

演習場整備の準備開始 施設機械操作の練度向上も

施設団は1月17日から土演習場において令和3年2月10日までの間、東富年度砕石生産を実施し、



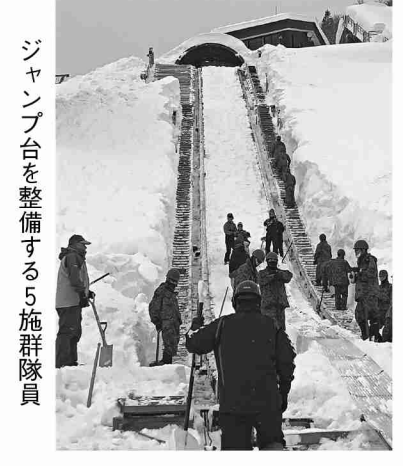
採石場の現場視察をする団長(左手前)

令和4年度春季東・北富土演習場定期整備へ向け、砕石生産とはロックアップ力付油圧ショベルで岩盤を砕き、さらにクラッシュプラントで細かく破砕して演習場定期整備、応急舗装等に使用する砕石を生産することである。令和3年度の砕石生産は今回が2回目、第307施設隊が担任した。この際、団隷下各部隊から油圧ショベル2台、湿地ドーザー1台、特大型ダンプ5台の支援を受け、道路の路床に使用する割石を1000立方メートル、道路の表層の整備に使用する礫を4800立方メートルを生産し、必要な骨材収集をして円滑な定期整備の準備を実施した。

また1月23日、団長が現地指導を行い、状況を確認するとともに参加隊員を激励した。

スキー部内外支援で活躍 地域との融和を図る

第5施設群は1月13日から19日までの間、新潟県妙高市の各スキー場において「令和3年度新潟県スキー選手権大会(兼団体予選)」を支援した。本支援では21人の隊員が会場やスキージャンプ台等斜面の整備、運営補助(飛距離測定員補助)等を行った。隊員らは誠実な態度で競技運営を実施し、自衛隊に対する理解の獲得と信頼感の醸成に



ジャンプ台を整備する5施設群隊員

より地域との融和を図った。5施設群は本支援のほか、1月14日から21日の間、同市で行われた防衛大学の冬季定期訓練において、スキー技術指導における助教として参加して訓練の整備円滑な実施に寄与するとともに、2月28日から3月6日までの間、妙高市で行われた「全関西学生スキー大会」を支援した。

関東補給処

陸曹中級課程履修前教育 万全な入校前準備を

関東補給処は1月24日から2月4日までの間、霞ヶ浦駐屯地において第13期陸曹中級課程履修前教育を実施した。



本教育は総務部、火器車両部、航空部、松戸支処、古河支処、吉井弾薬支処及び駐屯地業務隊から計11人が参加し、中級陸曹としての在り方を学び、来る入校の資質及び課程履修に必要な共通の識能を充実させ、修学意欲の向上に資すること

とを目的に行われた。被教育者は戦術に関する基礎的な知識、職務分析における実施要領を本教育間の重視事項とし、戦術概説や防衛法制、戦術概説及び幕僚見積等を修学した。

また被教育者は、最先任上級曹長による航空部の貞方2曹は「本教育で学んだことを入校間も忘れずに頑張ります」と意気込みを語った。

不測事態を想定し 「0」から生み出す

火器車両部 工作工場



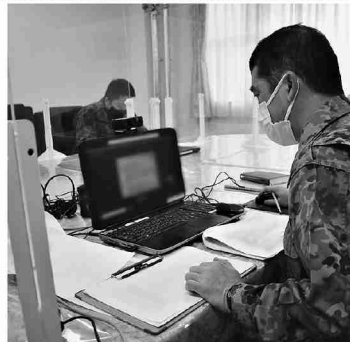
台座の状態を確認する藤田技官

火器車両部 工作工場 前輪の動きと連動しており、オートバイが台座に新たに展示用として取得した「広報展示用オートバイ」を、見学者が安全に乗れるようにしてほしいというニーズを受け本台座を製作した。普段は教育用訓練資材(地雷原標識、各種模擬爆破薬等)をはじめ、現場のニーズに応じた工具・治具・部品を製作している当工場。今回は隊員の工作技術の練成も兼ね、業務上技術として腕引きを受けた。安全性の要である固定用台座には、製作を担当した藤田技官の「職人魂」と『遊び心』を随所にみることができ、その技術力と発想力の高さがうかがえる。

用賀支処

上級衛生資材 特技検定 リモート形式を活用

用賀支処は2月14日から18日までの間、検定受



テレビ会議システムで教育する担当官

験者所在各部隊において、令和3年度特技検定「上級衛生資材」「上級衛生整備」を実施した。向検定及び教育は用賀支処長を認定権者とし、用賀支処を含む方面直轄部隊、大臣直轄部隊等の12人の隊員に対し行われた。コロナ

禍という特性上、学科及び術科はテレビ会議システムを活用したリモート形式で実施する中、「上級衛生整備」の術科は、担当官が各部隊に向いての実技・検定となった。衛生部長以下担当官は衛生科部隊等における薬剤、補給、器材整備陸曹等に必要知識、技能等を教育するとともに、検定官が当該特長の練度を評価判定し、新たに12人の上位衛生特長を有する陸曹を生産させた。

工作技術に磨きをかけて

自らの訓練も兼ね、あえて既存の物品を使用し、藤田技官は「図面を見て物を作るとは誰にでもできる。しかし、いざ不測事態となったとき、図面や既製品がないのに対応できないのでは困る。」から生み出された。木の切株に埋め込まれた前輪固定金具は、ステンレス製の板を曲線の金型にあて、金づちで叩いて成形。またこの金具は



削った切株と手製金具に固定された前輪

2 高群

『生き残り、戦い抜け!』

訓練検閲で各地に展開

第2高射特科群は2月14日から19日までの間、土演習場及び航空自衛隊入間基地において令和3年度第2次方面隊訓練検閲を受閲した。

本訓練検閲は敵部隊の着上陸侵攻に対し、対艦・対空戦闘を行う隊員



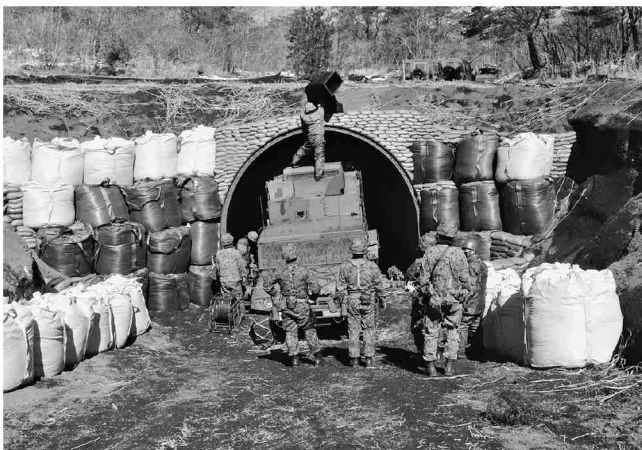
対空戦闘を行う隊員

戦闘部隊及び火力戦闘部隊を重視した方面隊の対空掩護を任務とし、作戦準備間から武力攻撃事態対処間の各種行動について4夜5日の連続状況下で受閲した。

また航空自衛隊及び師団高射特科部隊と連携した組織的な対空戦闘を実施するとともに、クロス系クラウドシステム



誘導弾を搭載する隊員



ライナープレートを使用した築城

等を活用した二元的な対空情報活動を実施した。群は引き続き、競争段

後支隊

野戦兵站部隊として練度を向上 2 個部隊が後支隊訓練検閲

東部方面後方支隊は土演習場において、令和3年度第3次及び第4次後方支隊訓練検閲

を実施した。第3次は2月14日から18日までの間、第301高射直接支援中隊が、第4次は2月

19日から22日までの間、第103補給大隊が訓練検閲を受閲した。検閲間



中SAMの部品を交換する第301高射直接支援中隊の隊員



即応予備自衛官とともに野外燃料交付所を開設する第103補給大隊の隊員

センチを超え、最低気温がマイナス5℃以下となる厳しい状況の中で受閲であった。

また103補大訓練検閲は平成30年3月の大隊新編以来初の検閲であり、24人の即応予備自衛官とともに「常即一体」となり行動し、施設の開設、警戒・自衛戦闘はもとより燃料、糧食、部品等計15件27トンに及ぶ補給支援を実施するとともに、状況下における入浴、給水等の各種需品サービス業務を実施して、任務を完遂した。

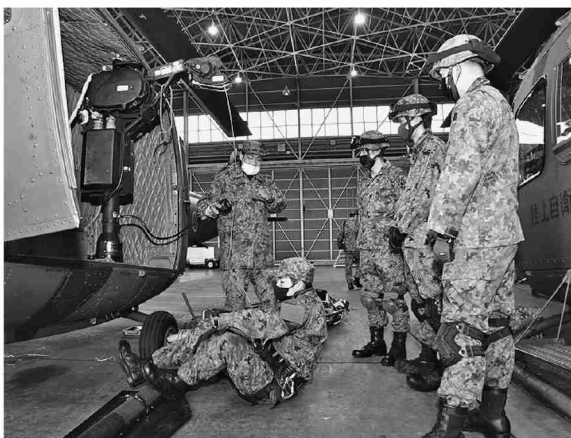
後方支隊は本検閲において所望の訓練成果を収め、令和3年度における後方支隊訓練検閲を終了した。来年度も強靱な野戦兵站部隊を追求するべく、引き続き、練成訓練を積み重ね、さらなる練度向上を図る。



東富士演習場で実施したヘリボン訓練

航空隊

職種内外連携し 空地協同能力の向上を図る



航空機のホスト機能を研修する第32普通科連隊の隊員

東部方面航空隊は2月14日から16日までの間、立川駐屯地及び東富士演習場において「空地協同訓練」を実施した。

訓練では第4対戦車ヘリコプター隊、東部方面ヘリコプター隊、東部方面管制気象隊、また他部隊からは第1飛行隊(第1師団)、第12ヘリコプター隊、第32普通科連隊がヘリボン作戦に係る職

種の内外の協同連携を機能的に演練し、空地協同能力の向上を図った。14日は訓練開始にさき

面管制気象隊、また他部隊からは第1飛行隊(第1師団)、第12ヘリコプター隊、第32普通科連隊がヘリボン作戦に係る職種の内外の協同連携を機能的に演練し、空地協同能力の向上を図った。



英語弁論大会は英語による原稿の作成及び発表を通じ、意思伝達能力を向上させるとともに国際分野で活躍できる陸曹の資質向上

混成団

スピーチ、表現力で勝負

基礎英語課程で弁論大会

第3陸曹教育隊は1月21日、板妻駐屯地において第77期初級陸曹特技課

英語弁論大会は英語による原稿の作成及び発表を通じ、意思伝達能力を向上させるとともに国際分野で活躍できる陸曹の資質向上

を図ることを目的とし、入校者12人が参加した。弁論の主題は「職務上の経験」「日本文化」等幅広い分野から発表者自身が選択し、限られた時間の中で教官・助教たちからは、伝えたい思いの表現要領について指導や、部外講師からはジェスチャーや抑揚の付け方の助言を受け、学生たちは、聞き手が理解しやすいよう工夫を凝らし、弁論大会に臨んだ。

効果や学問への影響を自己の信念、体験等を踏まえ熱く語り、スピーチ力及び表現力が特に優れていたため、見事優勝した。また女性自衛官教育隊員清水2曹による「宝塚歌劇の魅力」、陸上総隊付隊清水2曹による「陸上自衛隊の近接戦闘」という題目のスピーチも内容が評価され表彰された。優勝した工藤3曹は「何度も練習しました。結果が出てうれしいです。さらに英語力に磨きをかけて部隊に貢献できる自衛官になりたいです」と語った。

静岡地本 未来の同期たちへ 入隊予定者懇談会で交流

自衛隊静岡地方協力本部静岡募集案内所は2月1日から4日までの間、同案内所（静岡市）において令和3年度入隊予定者懇談会を実施した。これは同所が担当する静岡市葵区、駿河区の入隊予定者を対象に、陸・海・空・女性の区分ごとに開催し、この先同期となる者同士の交流を深めるために行ったもので、入隊者及びその家族を合わせて18人が参加した。本懇談会は当初、各教育隊のホームページを活用し、教育隊の着隊から入隊式、各種訓練、検定など、教育期間中の一連の流れを写真や動画を使って紹介した。また入隊案内を確認しながら入隊に向けての準備・心構え



自己紹介する参加者

群馬地本 全国地本で初の試み 高崎事務所でボーイズトーク

自衛隊群馬地方協力本部高崎地域事務所は12月26日、全国地本初の試みであるボーイズトークを開催した。この説明会は入隊予定者や受験予定者から「年齢の近い地元出身の自衛官と話がしたい」「男だつて不安があります！」などの声を聞いたため実施となった。当日は全国から集結した隊員6人が参加者たちの疑問や不安解消に努めた。陸上ブースでは第1施設大隊大塚1士、第34普通科連隊吉澤1士、安藤1士が9人に、海上ブースでは第4整備補給隊田中海士長が1人に



ある！ある！自衛隊

byともい



入隊予定者に説明する隊員



予備自衛官補に訓示する東京地方協力本部長

予備自衛官補に訓示する東京地方協力本部長は、2年7カ月ぶりと対面での辞令書交付式を実施した。予備自衛官補とは主として自衛官未経験者が採用され、所定の教育訓練を経て、予備自衛官として任用される制度である。予備自衛官に任用された以後は、年間5日間の招集訓練に参加する他、いざという時には、招集に応じて国防等の任務に就くものである。式では参加者へ本部長から辞令書が交付され、次いで服務の宣誓が行われた。その後の訓示で本部長は最近の予備自衛官の活躍について、自分も貢献したいと強く思ったと述べ、国防の一端を担う予備自衛官になれるよう決意を新たにしていた。

東京地本 予備自衛官補に辞令書交付 地本長が隊員を激励

自衛隊東京地方協力本部は2月4日、本部庁舎において令和3年12月18日付で採用された予備自衛官補52人のうち、参加して任用される9人に対し、2年7カ月ぶりと対面での辞令書交付式を実施した。予備自衛官補とは主として自衛官未経験者が採用され、所定の教育訓練を経て、予備自衛官として任用される制度である。予備自衛官に任用された以後は、年間5日間の招集訓練に参加する他、いざという時には、招集に応じて国防等の任務に就くものである。式では参加者へ本部長から辞令書が交付され、次いで服務の宣誓が行われた。その後の訓示で本部長は最近の予備自衛官の活躍について、自分も貢献したいと強く思ったと述べ、国防の一端を担う予備自衛官になれるよう決意を新たにしていた。



中学生に説明する隊員

神奈川地本 将来の職業選択に向け 中学校で職業講話

自衛隊神奈川地方協力本部上大岡募集案内所は1月20日、横浜市立根岸中学校の職業講話学習会に参加した。この職業講話学習会は、象者が不安を解消して入隊できるように全力でサポートしたい。また翌日には、恒例のガールズトークにも力を入れ、対象者が不安を解消して入隊できるように全力でサポートしたい。また翌日には、恒例のガールズトークにも力を入れ、対象者が不安を解消して入隊できるように全力でサポートしたい。



訓練所感

東部方面システム通信群第105指揮所通信大隊 通信支援中隊 3等陸尉 中園 雄太 訓練幹部に上番し、上級部隊及び関係部署と連携して各種訓練・支援の任務完遂のため日々尽力しています。今回、9月24日から10月5日までの間、陸上自衛隊約30年ぶりとなる令和3年度陸上自衛隊演習に参加しました。任務については西部方面隊の通信組織増強及び拡充で訓練幹部に上番し、上級部隊及び関係部署と連携して各種訓練・支援の任務完遂のため日々尽力しています。今回、9月24日から10月5日までの間、陸上自衛隊約30年ぶりとなる令和3年度陸上自衛隊演習に参加しました。任務については西部方面隊の通信組織増強及び拡充で訓練幹部に上番し、上級部隊及び関係部署と連携して各種訓練・支援の任務完遂のため日々尽力しています。今回、9月24日から10月5日までの間、陸上自衛隊約30年ぶりとなる令和3年度陸上自衛隊演習に参加しました。任務については西部方面隊の通信組織増強及び拡充で訓練幹部に上番し、上級部隊及び関係部署と連携して各種訓練・支援の任務完遂のため日々尽力しています。

通信支援中隊 陸上自衛隊演習に参加して

私は令和3年3月東部方面システム通信群第105指揮所通信大隊通信支援中隊の運用として幹部候補生として幹部学校へ入校する等、自衛隊は努力すればやりたいことが叶う場所だと伝えた。入隊予定者として幹部候補生として幹部学校へ入校する等、自衛隊は努力すればやりたいことが叶う場所だと伝えた。入隊予定者として幹部候補生として幹部学校へ入校する等、自衛隊は努力すればやりたいことが叶う場所だと伝えた。

最先任 上級曹長

「継続は情熱なり」 第1後方支援連隊 青木 昇 准陸尉



第1後方支援連隊最先任上級曹長の青木准尉です。平成30年8月から最先任上級曹長として勤務しております。

第1後方支援連隊はあらゆる場面で活躍を期待される部隊です。災害派遣では、被災された方々への生活支援を行います。部隊の装備品が故障すれば整備員が修理します。燃料、糧食、水、入浴及び洗濯支援を行います。

部品の補給もします。また、けがや病気になるれば衛生科隊員が手当してくれます。大量の物資を運ぶため、兵站衛生支援部隊として、任務を遂行するために、私が隊員に呼び掛けているのは「団結して任務をやり遂げる」です。隊員一人一人の力は弱いかも知れませんが、二人三人と力を合わせれば、できないと思ったことでもやり遂げられるからです。

私は隊員の意見をよく聞き、連隊長に報告する下意上達が重要であると認識しています。それは指揮官の目となる耳となって、現地で何が起きているか状況を把握し報告することこそが、連隊が任務を遂行する上で大変重要だと考えるからです。

最先任上級曹長は「部隊は団結しているのか?」「士気は旺盛か?」「隊員の健康状態は?」など、現地状況を指揮官に直接お伝えできる立場にいます。

最後になりましたが、私は令和4年7月20日をもって退官いたします。これまで多くの協力や支援をしていただいた皆様、本当にありがとうございます。

私自身に言い続けている言葉があります。それは「継続は情熱なり」です。情熱なくして何もできません、情熱なくして隊員は動きません。互いを認め合い団結し、必ずやり遂げようという情熱を持った隊員が多く育ち活躍する事を切に願っております。

オピニオン 一言申し上げる

東方オピニオンリーダー 中村 庸一郎



は、まさに憎きコロナという思いです。日本の間近には特別に警戒しなくてはならない国があります。私は戦後続いてきた平和は決して憲法のおかげではなく、自衛隊の存在と日米同盟のおかげだと思っています。そして崇高な使命を持った真の日本人の組織が自衛隊であると信じています。オピニオンリーダー任期中は貴重な体験をさせていただき、心より感謝しております。この恩義に報いるのに陸・海・空自衛隊の応援活動には今後も力を注いでいきます。関係者各位の皆さま、4年間ありがとうございました。

新春の候益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。私は十條駐屯地からの推薦でオピニオンリーダーを仰せつかり令和3年度末で4年の任期を満了します。省みますと初年度の東北方面区研修では、東日本大震災後の過酷な状況下で自らの家族の安否確認もままならない中で、救護活動を

された隊員の生の声を聞き、敬服の至りで目頭が熱くなりました。また2年目の中部方面区研修では「つづのくじら館」が休館日にもかかわらず、我々のみの入館が許され館長に隔々まで案内していただき、戦後日本の海には1万個以上の機雷があつて多くの犠牲者があったこと、そして掃海

作業がまだ続いている実態を聞いた時には仰天しました。こうして書いていますと各部隊で感銘を受けたさまざまなことや、自衛官の方々の言葉や面影が走馬灯のように浮かんでいきます。令和2年度、3年度の他方面区研修が新型コロナウイルス感染拡大により中止となったこと

は、まさに憎きコロナという思いです。日本の間近には特別に警戒しなくてはならない国があります。私は戦後続いてきた平和は決して憲法のおかげではなく、自衛隊の存在と日米同盟のおかげだと思っています。そして崇高な使命を持った真の日本人の組織が自衛隊であると信じています。オピニオンリーダー任期中は貴重な体験をさせていただき、心より感謝しております。この恩義に報いるのに陸・海・空自衛隊の応援活動には今後も力を注いでいきます。関係者各位の皆さま、4年間ありがとうございました。



「『恩送り』をモットーに」 通信教育直接支援中隊 伊藤 なつみ 陸士長

入隊を決意しました。Q2・思い出深い訓練や事業などは? 後方支援隊本部伝令として臨時勤務したことで、後方支援隊長の予定の作成や、環境整備等、普段の整備業務とは異なる業務内容を体験することができ、「目配り・気配り・心配り」の3つの配慮について学べたことが、いい思い出になりました。

Q3・趣味や特技は? バドミントンです。中学時代にバドミントン部に所属していたのと、所属部隊に経験者が多数おり、練習に誘っていただいたのがきっかけで、再度熱が入りました。

Q4・休日は何をしていますか? 新型コロナウイルス感染症対策のため、外出を控えています。読書とコーヒーが好きなので、よくカフェ巡りをしていきます。最近ではマイクローカーを買って、コーヒー作りを楽しんでいます。

Q5・今後の目標は? 諸先輩方のご指導もあり、陸曹候補生試験に合格することができ、感謝の気持ちでいっぱいです。私が受けたこの恩を「恩送り」として、後輩隊員の成長に繋げていきたいです。また営内班長

に上番し、活気のある営内班を築きたいです。馳まぬ努力でさらなる成長に励む伊藤士長の今後の活躍に期待します。

Q2・なぜ機甲科を選んだのか? 新隊員教育中の10キロ行進訓練時に「徒步行進ってこんなにキツイのか」と思い、そんな時に機甲科(戦車)は基本的に車両行進のみという話を聞き、それなら歩かなくて済むという淡い希望を胸に機甲科を希望しました。その念願が半分だけ叶って機甲科(偵察)部隊に配置され、今では斥候として歩き回っています。(笑)

Q3・現在の職務は? 現在は斥候陸曹として、斥候員を率いて監視活動や敵地の奥深くまで潜入して敵情等の情報収集をする任務に当たっています。少人数で行動することが多いので個人の能力や経験が問われる過酷な任務ですが、非常にやりがいのある仕事です。

Q4・休日の過ごし方は? 昨年結婚したため、休日は専ら家族サービスに努めています。妻と家事を分担し、お互いに支えあっています。

Q5・今後の目標は? 第12偵察隊の中核を担う陸曹として部隊等の精進に貢献する事を目標にし、それを実現するために自己の各種戦技能力を向上させると共に、後輩を育成するために指導能力を磨いていきたいと思っています。また昨年、家庭を持ったことを踏まえ、仕事と家庭双方の充実も目標とし「万事全力」という言葉をモットーに今後も精進していきたいです。

平均約2年の在任間は新型コロナウイルス対応に頭を悩ませながらも、オリンピック・パラリンピック支援、陸演、観閲式等、大きな行事や事業が目白押しで行われたため、凝縮された時間を過ごしたはずだ。マスクを外した表情も見ることがなく、酒を飲み交わすこともなく見送ることになってしまったことが残念でならない。

編集後記

柔らかな陽射しに春の訪れを感じながら、転出入行事の列に並ぶ。1回の異動で約4人に1人が入れ替わる総監部では、紹介される人の数も数十人に及ぶ。マスクと帽子で顔のほとんどが覆われ、スタイルや所作、声や言葉からその人となりを振り返り、想像する。

今月のフェアレディは、東部方面後方支援隊通信教育直接支援中隊の伊藤士長です。横須賀市出身の伊藤士長は、令和元年9月に通信教育直接支援中隊通信電子整備小隊に配属となり、暗号機整備係として、通信器材の高度維持に貢献すべく、日々の業務に励んでいます。



Q1・自衛隊に入隊したきっかけは? 災害派遣などで活躍する自衛官の姿に憧れて、

今月の東方男児は、第12偵察隊の青木3曹です。青木3曹は川崎市出身の25歳で、両親、妹の4人家族で育ちました。

Q1・自衛隊に入隊したきっかけは? 中学生の時に東日本大震災が発生し、被災者のために活動する自衛官の姿を見て、昔から人助けになる仕事をしたいと思っ



た自分自身に言い続けている言葉があります。それは「継続は情熱なり」です。情熱なくして何もできません、情熱なくして隊員は動きません。互いを認め合い団結し、必ずやり遂げようという情熱を持った隊員が多く育ち活躍する事を切に願っております。

場所は変われど、同じ組織でまた再開できることを信じ、未だ様々な問題が山積みする難しい時代を共に乗り越えていきたい。